

vol. 7

2008. 7. 10

MONTHLY REPORT

マンスリーレポート



● コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院
● 参加大学・がんセンター



愛媛大学

愛媛大学大学院医学系研究科
学務室大学院チーム
TEL(089)960-5868

岡山大学

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等
学務課大学院係
TEL(086)235-7986

香川大学

香川大学医学部学務室
(入試担当)
TEL(087)891-2074

川崎医科大学

川崎医科大学学務課
教務係
TEL(086)464-1012

高知女子大学

高知女子大学学生課
大学院担当
TEL(088)873-2157

高知大学

高知大学医学部学生・研究支援課
大学院教育担当
TEL(088)880-2263

徳島大学

徳島大学医学・歯学・薬学部等
事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

山口大学

山口大学医学部学務課
大学院教務係
TEL(0836)22-2058

四国がんセンター

TEL(089)999-1111

<http://www.chushiganpro.jp/>

Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム



趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(コメディカル)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

ごあいさつ

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修、学生募集などの連絡を目的としたマンスリーレポートを発行しています。

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の28のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムです。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間の共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修を行います。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のファカルティ・ディベロップメントを連動させ、がん専門職養成の教育能力を強化します。こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門職が数多く輩出されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待されます。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局



腫瘍外科専門医コース新入生、がんプロへの思いを語る

川崎医科大学



河邊 由貴子 さん

私は2008年4月より川崎医科大学形態系腫瘍病態治療学科に入学し、がんプロフェッショナル腫瘍外科系専門医コースを選択しました。がんはわが国において1981年から死因の第1位であり、現在でも約30万人以上の方が亡くなっています。これに対し2007年4月1日にがん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的にがん対策基本法が施行され、当院でも同年8月にがんセンターを設置するに至っています。当院では医療従事者への教育研修のために年2回Cancer Seminarや月1回

Case Conferenceなどを行い、地域の皆様への情報提供には市民公開講座を行い、がんに関する情報を発信しております。また2008年2月8日には当院も地域がん診療連携拠点病院に指定され、今後地域病院との連携を深め、より質の高いがん治療を行うことが望まれます。私自身は、現在まで消化器癌を中心とした癌治療に携わってきましたが、がんプロに参加することで多領域のがんに関する専門知識を学ぶことができ、今後のがん診療において非常に役立つと考えております。

また川崎医科大学大学院におけるがん研究では、主に消化器腫瘍に対する新規分子標的薬の抗腫瘍効果の検討と臨床応用を目指して、日々研究に励んでおります。

今後がんプロを基盤として地域の諸先生方、看護師、薬剤師等の方々とともにがんの基礎知識を高め、臨床研究と診療を担う臨床腫瘍医を目指したいと思います。



Lee Moffitt Cancer Centerにおける研修報告

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムのFDプログラムとして、平成20年3月24日～28日の5日間、アメリカ合衆国フロリダ州タンパにあるLee Moffitt Cancer Centerでチーム医療に関する研修を行う機会を得たので、その概要を報告します。

3月22日(土)

研修メンバーは医師3名(内科1名・外科2名)、看護師1名、薬剤師1名の総勢5名から成り、川崎医科大学から4名、山口大学から1名の参加であった。関西国際空港を離陸してからテロイト経由でタンパ国際空港に着陸するまでの所要時間はおよそ17時間。関空ではにぎやかだった面々もさすがに疲れはかくせない。時差がマイナス13時間であるため到着したのは夕方の6時を過ぎていたが薄手のジャケットを1枚はおれば十分過ごせる程度の気温であった。Lee Moffitt Cancer Centerでfellowとして留学中の山内照夫先生と研修直前に連絡を取ることができ、わざわざ空港まで自家用車で迎えに来ていただいたのでスムーズにホテルに入ることができた。

3月23日(日)

午後から山内先生の先導でLee Moffitt Cancer Center内を見学して回った。Lee Moffitt Cancer Centerは約160床を持つ開設20年あまりのがん専門施設である。入院病床数は少ないものの外来化



学療法を受ける患者は約100人/日で、病院の隣には患者用の宿泊施設も用意されている。明るい色調で統一された院内には大きな窓から暖かな日が差し込み、アメニティも豊富でゆっくりと時間が過ごせるよう工夫されている。隣接する研究棟も広々としており、各ユニットが機能的に連携、共有し合えるよう配置されカンファレンスルームも充実していた。続いて車で数分の距離にあるTampa General Hospitalに向かった。公立の総合病院であるがLee Moffitt Cancer Centerの多くのfellowは週1、2回はここで診察を担当するという。Lee Moffitt Cancer Centerの外来化学療法室の分室もあり、患者の都合によりこちらで治療を受けることもできる。

3月24日(月)研修1日目

ホテルから病院まで車で約5分。毎日タクシーで病院に向かうことになった。9時に研修のcoordinateをしてくれるMs. Nzuzi Gosinと対面。にこやかな笑みで非常にわかりやすい英語を話してくれる。Lee Moffitt Cancer Centerでは連日世界各国から研修を受け入れているので研修のprogrammingはお手ものだが、受け入れが急であったことと期間が1週間の研修も初めてであり苦労したとのこと。しかし、あらかじめCVで各々の職種、希望する研修内容を伝えていたので5人に個別のprogramを用意してくれていた。



Orientation後、午後から医師3人はそれぞれ専門領域の外来診察を見学した。外来診察室は各臓器別にユニットが生まれ内科・外科の区別はない。外来部門に在籍する看護師は80名。まず、看護師が問診をして全身状態を把握し、続いて薬剤師が薬剤の有害事象の有無について評価する。二人の報告を聞いて医師は問題点を抽出し診察を始める。治療方針について議論が必要な場合は、すぐに内科・外科・放射線科、コメディカルが集まって現場でdiscussionが行なわれる。患者が担当科に移動するのではなく、医療者が部屋を訪問して診察にあたり方針を相談する、という意識付けが病院内に徹底しているのを感じた。このような診療体制は迅速な対応を可能にするだけでなく、情報の共有によってリスクマネジメントにおいても有用であろう。

一方、平松看護師と横枝薬剤師の両名は緩和チームによる病棟roundに参加した。チームは緩和専門医師、専門看護師、薬剤師から構成され、治療内容については日本と差はないが、患者の状態の評価を主に看護師と薬剤師が行い、医師はその提案を受けて最終決定を下す役割にまわっていることが大きな違いと感じられた。

このように外来でも病棟でもチーム医療の中で看護師、薬剤師の果たす役割はきわめて大きい。看護師は豊富な医学知識を持っており血液検査の解釈や画像診断についても医師に劣っていない。薬剤師は投薬状況と検査結果を見ながら投与量の調整を行う。医療現場において診療にあたる医師とコメディカルは全く対等であることが印象的であった。



3月25日(火)研修2日目

Lee Moffitt Cancer Centerで年3回開催されるOncology Nurse Review Courseがたまたま25、26の両日に行われており、coordinatorのNzuziの配慮で聴講できることになったため平松看護師と平井医師が出席した。これはOCN(Oncology Nurse)の資格を取るうえで参加が必修となっている2日間コースのseminarで、院外からの参加者も多く、2日目の最後には修了証が渡される。内容は、がんの基礎医学、病態生理からがん看護、緩和医療、さらにはprofessional performance & researchに至るまで多岐に及び、連日8時から17時までびっしりとプログラムが組まれていた。内容が高度であったことが印象に残った。アメリカでは看護師の能力開発システムや評価法が確立されており、資格を取ることが給与に反映されるためモチベーションは高い。資格とincentiveの問題は日本でも盛んに議論されるようになったが一朝一夕には解決しがたいと思われる。しかし学習意欲を満足させ診療内容を向上させるためには生涯教育が必要であることを強く感じた。

横枝薬剤師らはcentral pharmacyで薬剤師業務について見学した。薬剤師は処方監査や疑義紹介、薬歴管理、患者指導など日本の薬剤師が実践していることに加え、処方設計、化学療法レジメンの作成



Lee Moffitt Cancer Centerにおける研修報告



と管理・評価などに従事し、その専門的知識を用いてチーム医療における重要な位置を占めている。薬剤の払い出しや注射薬の調剤はpharmacy technicianが行うため、薬剤師は処方監査や患者との面談、化学療法の説明などに専念することができ、薬剤師の本質的な能力を十分に発揮できる環境にあった。患者数に対する薬剤師の数が日米で大きく隔たりがあることをあらためて痛感することになった。また、薬学部学生のconferenceでは薬理学の知識のみならず臨床的な知識を持つことが求められており、患者に近い位置での薬剤師のあり方が教育されていた。

3月26日(水)研修3日目

医師らは手術室の見学やTumor Boardに参加した。手術室内の風景は日本と差はない。ただ、ここでも診療科間の連携が印象に残った。未診断の膵頭部

腫瘍の生検が行われていたが、生検材料を外科医が手術室の隣にある病理室に持って行き、その場で一緒に顕微鏡をのぞく。診断の断定に至らなかったため今度は病理医と内科医が手術室にやってきて術野を見ながら方針についてdiscussionする。日本ではめずらしい光景だ。

Tumor Boardは臓器ごとに週1回のペースで開催されている。参加しているのは内科医、外科医、放射線科医、病理医、看護師、薬剤師らで、どのboardも座るところがないほどの人数である。進行は日本と同じで各症例のpresentationを担当医が行いdiscussionが始まるが途中で病理医がcommentを入れることや看護師が積極的に質問している姿が印象的であった。

槇枝薬剤師は午前中hematology clinicや外来化学療法室で薬剤師の業務の実際を見学し、午後からは医師も加わって薬剤部におけるリスクマネジメントについての取り組みを聞いた。各種化学療法のレジメンを登録管理し、発熱性好中球減少症など緊急対応が必要となる場合の院内ガイドラインを作成するなどして治療法を標準化する努力が行われている。またincidentが発生した際にはすぐにnetworkを介して報告を受け数日内にはその原因を分析してannounceし周知徹底を図るといふ。いくら対策を講じてもincidentがなくなることは無く、対策を練って練りすぎるということはない、とBob Bradbury Pharm. Dr.は笑顔で語った。

この頃になると研修にも慣れ、空いた時間で施設内を散歩する余裕ができた。院内では、しばしばバザーが開かれており患者家族だけではなく職員も顔を出して掘り出し物を探している。外来棟のロビーや廊下では時にピアノやチェロが生演奏され患者の癒しに貢献していた。タンパには約5000人の日本人が在住しているということであったが、院内のgift shopにも日本人の方が2人ボランティアとして働いておられ、1週間を通じていろいろとお世話になった。

3月27日(木)研修4日目

平松看護師は看護師の新人教育、生涯教育について説明を聞いた。新人教育は専任のdirectorが企画運営を担当し、まず年間計画を立て6週間後に到達度を確認し方向修正を加えるという。生涯教育はさまざまな講習会のほかにWebによる自己学習もできるよう外部企業と契約しており450ものコースから興味のある項目を選択することができる。経費はLee Moffitt Cancer Centerが負担する。アメリカでは看護師のclinical ladderが確立しており、各看護師は自らのlife styleと目標に応じてcarrier upを目指している。

午後は全員でアメリカでの卒後研修制度について説明を受けた。Medical oncologistにしてもsurgical oncologistにしてもcertificationを取ればどうなるか、取るためにはどうすればよいか明瞭に示されているため目標を立てやすく教育方法も理にかなったものである。教育する側も一定期間教育に専任できるシステムがあり、教育が実績として評価されることが日本との大きな違いであると感じた。

3月28日(金)研修5日目

いよいよ研修最終日。医師ならびに看護師研修制度のmanagementを統括するDr. LetsonとKathy McKinleyに面会した。日米で最も異なる点は評価システムが確立されているかどうかということであろう。研修医は指導医、看護師から評価を受ける

一方、指導者も研修医から評価を受ける。看護師も同様である。資格試験に合格すれば年収に反映されるため、常に自己鍛錬に務め努力を惜しまない。それが組織全体を活性化することにも役立っている。しかし一方では、物事の処理能力が評価されるのに対し、評価に反映されない事柄、例えば長時間患者の訴えを聞くなどの行為がおろそかになる傾向もあるという話も聞いた。

まとめ

あっという間の1週間でした。最も強く印象に残ったのは、医師、看護師、薬剤師それぞれが専門的知識と技術をもって独立し業務を執行することで強い連携が生まれているということです。コメディカルの育成と教育、医師の意識変革がなければチーム医療は達成できないと強く感じました。研修メンバーは微力ながら日本に帰ってからこれらの問題に取り組みうと話し合いながらタンパを後にしました。研修を通じてLee Moffitt Cancer Centerのボランティアを含めた職員の方々が非常に友好的で親切であったことが今回の研修が充実したものになった大きな要因でした。是非、今後も当施設での研修を続けていただきたいと思います。

最後に本研修に参加する機会を与えていただきました中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムの皆様、プログラムの運営をしてくださった皆様、Lee Moffitt Cancer Centerの研修スタッフの皆様にご心より感謝いたします。

参加メンバー

川崎医科大学 平井敏弘(医師) 平松貴子(看護師)
中田昌男(医師) 槇枝大貴(薬剤師)
山口大学 瀬川 誠(医師)

文責 川崎医科大学 中田昌男



中国・四国広域がんプロ養成プログラム 平成21年度 学生募集スケジュール

大学名	コース名1	コース名2	出願期間	試験日	合格発表	問合せ	電話
愛媛大学	専門医師養成コース	腫瘍内科系専門医養成コース	平成20年11月上旬発表予定	21.1.22(木)	21.2.20(金)	医学系研究科学務室大学院チーム	(089)960-5868
		腫瘍外科系専門医養成コース					
岡山大学	専門医師養成コース	腫瘍内科系専門医養成コース	20.8.11(月)~20.8.15(金)	20.8.27(水)	20.9.19(金)	医歯薬学総合研究科等学務課大学院係	(086)235-7986
		放射線治療専門医養成コース					
		腫瘍外科系専門医養成コース					
	コメディカル養成コース	がん専門薬剤師養成コース	博士前期課程 20.7.18(金)~20.7.25(金) 博士後期課程 20.7.28(月)~20.7.29(火)	博士前期課程 20.8.19(火)~20.8.20(水) 博士後期課程 20.8.18(月)	博士前期課程及び 博士後期課程共に 20.8.29(金)	医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生係	(086)251-7923
	CNS(がん専門看護師)コース 医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース	20.9.1(月)~20.9.5(金)	20.9.27(土)	20.10.23(木)	医歯薬学総合研究科等学務課教務第二係	(086)235-7984	
香川大学	専門医師養成コース	腫瘍内科系専門医養成コース	20.7.28(月)~20.8.1(金)	20.8.28(木)	20.9.18(木)	医学部学務室(入試担当)	(087)891-2074
		緩和医療専門医養成コース					
		腫瘍外科系専門医養成コース					
川崎医科大学	専門医師養成コース	腫瘍内科系専門医養成コース	20.10.10(金)~20.10.23(木)	20.11.4(火)	20.11.12(水)	学務課教務係	(086)464-1012
		腫瘍外科系専門医養成コース					
高知大学	専門医師養成コース	腫瘍内科系専門医養成コース	20.8.11(月)~20.8.14(木)	20.8.30(土)	20.9.26(金)	岡豊学務課 大学院教育担当	(088)880-2263
		放射線治療専門医養成コース					
		腫瘍外科系専門医養成コース					
	コメディカル養成コース	がん専門薬剤師養成コース 医学物理士養成コース	20.8.11(月)~20.8.14(木)	20.8.30(土)	20.9.26(金)	岡豊学務課 大学院教育担当	(088)880-2263
高知女子大学	コメディカル養成コース	CNS(がん看護専門看護師)コース	20.8.1(金)~8.15(金)	20.9.14(日)・15(月)	20.9.26(金)	学生課大学院担当	(088)873-2157
徳島大学	専門医師養成コース	がん薬物療法専門医コース	20.8.18(月)~20.8.29(金)	20.9.9(火)	20.9.29(月)	医学・歯学・薬学部等事務部学務課大学院係	(088)633-9649
		放射線治療専門医コース					
		緩和療法医コース					
		腫瘍外科系専門医コース					
	コメディカル養成コース	がん専門薬剤師コース	【前期】 A日程:終了 B日程:20.8.4(月)~20.8.8(金) 【後期】未定(20年度は11月実施)	【前期】 A日程:終了 B日程:20.8.29(金) 【後期】未定	【前期】 A日程:終了 B日程:20.9.19(金) 【後期】未定	医学・歯学・薬学部等事務部学務課第三教務係	(088)633-7247
	がん専門栄養士コース	20.8.1(金)~20.8.8(金)	20.8.21(木)	20.9.2(火)	医学・歯学・薬学部等事務部学務課大学院係	(088)633-9649	
		がん専門看護師コース	20.8.18(月)~20.8.26(火)	20.9.6(土)	20.9.24(水)	医学・歯学・薬学部等事務部学務課第四教務係	(088)633-9009
		医学物理士コース	20.8.18(月)~20.8.26(火)	20.9.6(土)	20.9.24(水)		
山口大学	専門医師養成コース	臨床腫瘍専門医コース	博士前期課程・博士後期課程 第1回:終了 第2回:21.1.5(月)~21.1.9(金)	第1回20.7.31(木) 第2回21.1.20(火)	第1回20.8.22(金) 第2回21.2.16(月)	※平成21年4月入学(第1回選抜)における 「事前審査申請期間」は終了しました。 医学部学務課大学院教務係	(0836)22-2058
		放射線治療専門医コース	医学博士課程 第1回:終了 第2回:21.1.5(月)~21.1.9(金)	第1回 20.7.31(木) 第2回 21.1.20(火)	第1回20.8.22(金) 第2回21.2.16(月)		
		腫瘍外科専門医コース	博士前期課程・博士後期課程 第1回:終了 第2回:21.1.5(月)~21.1.9(金)	第1回20.7.31(木) 第2回21.1.20(火)	第1回20.8.22(金) 第2回21.2.16(月)		

※平成20年度 第2回目以降の募集日程は随時掲載予定です。詳細につきましては、各大学にお問い合わせ下さい。

香川大学

香川大学大学院医学系研究科



研究科長 阪本 晴彦

讃岐平野の一角の通称「讃岐の丘」に香川大学医学部と附属病院があります。香川大学医学部は1980年に香川医科大学として開学し、1996年に看護学科が開設された後、2003年10月には香川大学と統合して現在に至っています。医学部では(1)「人間の医学・看護学」、(2)「世界に通ずる医学・看護学の教育研究」、(3)「地域医療の向上と医学・看護学の進歩と人類の福祉に貢献する」を目指して日夜、教育、研究、診療に当たっております。附属病院では腫瘍センターを設置してがん治療の実績を重ね、がん診療連携拠点病院に指定されています。将来は、腫瘍センターを中心として、各種のがん治療に当たっていく予定です。また、PETを用いた悪性腫瘍検診を行い、それぞれの疾患の早期発見と、その後の健康相談もさせていただいております。

わが国の死亡率第1位の疾患であるがんを横断的・集学的に診療できる専門家の養成、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんの特化し

た医療人の養成を行うことは日本の医学にとっての急務であり、そのための大学院のプログラムである「がんプロフェッショナル養成プラン」の積極的な推進が必要です。香川大学医学部は中国・四国8つの大学が作るコンソーシアムの一つとしてこの「がんプロフェッショナル養成プラン」に参加して、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すこのプログラムに貢献し、がん治療の進歩に積極的に関わっていきたくと考えます。



病院長 石田 俊彦

香川大学医学部附属病院

香川大学医学部附属病院では、質が高く安全ながん医療の確立とがん専門医の育成を目標として、各診療科の連携を強めるとともに、放射線治療、化学療法(特に外来化学療法)と緩和医療を充実させるために平成19年4月に腫瘍センターを設置し、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。

腫瘍センターには、①がんセンターボード、②外来化学療法部門、③がん診療地域連携部門、④がん登録部門、⑤緩和ケア部門、⑥がん診療相談部門の6部門があり、それぞれ有機的に機能しています。外来化学療法室には16床を配置し、障害者専用のトイレを有する個室も設置しています。現在、毎月延べ200名のがん患者が外来化学療法室で化学療法を行っています。

大学病院内に11の臓器別がんセンターボードを設定し、最適な治療法の選択が可能となっています。院内の全ての抗がん剤治療プロトコールは、事前登録された化学療法プロトコール審査委員会が審査・承認し、エビデンスレベルが高く、より安全な治療

を提供しています。現在、登録されている化学療法プロトコールは276件です。さらに、腫瘍センターを中心に、がん専門医の育成のみならずがん専門看護師や薬剤師の育成にも積極的に参画します。緩和ケアチームをはじめ、ICT、NST、褥そう対策チーム、口腔ケアチーム、感染対策室、安全管理室などがそれぞれの認定看護師により、チーム連携をとりながら患者さんのがん治療を支援しています。

大学病院では、中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムに参加し、「がんプロフェッショナル養成プラン」の中で、緩和医療の専門医育成と、地域における緩和ケア体制の充実を行っています。緩和集中セミナーが既に2回開催されて多くの方が出席され、緩和医療をめぐる最新情報や課題について理解を深めました。今後、他の地域がん診療連携拠点病院との連携を密にして、香川遠隔医療ネットワークを用いてのがん登録、循環型がん診療システムの構築を企画しています。



がん診療連携拠点病院

岡山済生会病院



病院長 糸島 達也

岡山済生会総合病院は、553床を有する総合病院で、保健・医療・福祉の充実、発展のために地域医療に貢献しています。当院の診療における運営方針は、救急医療、がん診療、センター医療およびへき地医療の4本柱です。へき地医療拠点病院として、へき地、離島の医療を担う一方、特に急性期病院として救急医療やがん診療に力を注いでおり、早くより予防・検診、検査・診断、治療、緩和医療と一貫体制で積極的に取り組み、平成14年12月に岡山県で初めて地域がん診療拠点病院に指定されています。がん治療では、豊かな経験と正確な手技のできる内科、外科、放射線科等各診療科の医師が連携し、患者の病状にあった切除手術、抗がん剤投与の化学療法、放射線照射などの治療をしており、がん治療の実力病院として全国上位にランクされています。高い専門性をもつ内視鏡医、画像診断医、病理診断医、がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、認定看護師(緩和ケア、化学療法、乳がん)など優秀なスタッフをそろえ、「病院長の総合力で治療する岡山のがんセンター」を目指

しています。2007年がん症例数は7037件、手術件数930件、ラジオ波凝固術191件、化学療法1523件、内視鏡的切除145件、放射線治療245件です。

当院は、コンソーシアムの一員として参加させていただくことで、チーム医療のレベルアップ、プロフェSSIONナルとして人材育成を図るとともに、医療や情報の地域格差の是正に努め、質の高いがん診療体制確立の一翼を担いたいと考えています。



がん診療連携拠点病院

高知医療センター



病院長 堀見 忠司

高知医療センターは、設立母体と大学医局が異なる高知県立中央病院と高知市立市民病院との統合によって設立され、県下の医療をリードするために創られた全国でも稀な高知県・高知市病院企業団立の自治体病院です。一方、日本で初めて、病院建設や建物の維持管理だけでなく、政令8業務の医療関連サービス業務、費用の効率化や業務の質の向上を図る目的で、PFI(Private Finance Initiative)事業による病院運営に取り組んだ病院です。

病床数は、632床(一般病床574床、結核50床、感染症8床)で、ICU 8床、CCU 4床、HCU 8床、NICU 9床、MFICU 3床、LDR 3床で運営され、チーム医療の推進と高度先進医療の実現に向けて設置した5つのセンター機能、すなわち、がんセンター、循環器病センター、地域医療センター、救命救急センター、総合周産期母子医療センターを保有する41の診療科、24時間応需体制の病院運営がとられています。

平成14年8月13日に、高知県立中央病院が県下唯一の地域がん診療拠点病院に認定され、この度の統合によって高知医療センターがこれを引き継ぎ、がん診療連携拠点病院に指定され、これまで公開講座やがん登録、さらにホームページへの成績登載など全てのがんに関する実績を公示して参りました。

高知医療センターは開院してまだ3年です。今まさに新しい歴史と伝統づくりの途についたところですが、年間がん症例数は中国・四国でも有数であり、平成19年は胃癌 280例、大腸がん 268例をはじめ、肝臓がん、胆道がん、すい臓がんなどの消化器系がんの他、肺がん、乳がん、婦人科がん、血液がんなど多くの診療科において多数のがんを扱っています。また同年、全身麻酔は3766例、ERCP、上部消化管、下部消化管内視鏡検査・治療は3641例、CVリザーバーをはじめとするIVR、TAE、RFAは1239例で、がんの3大治療の手術療法、化学療法、放射線療法を始めとする種々の治療が活発に行われています。

一方、当院のがんセンターは、がんセンター運営委員会を主な柱とし、外来化学療法、抗がん剤レジメンの管理、院内がん登録、がん相談支援、緩和ケアなどを主な業務として運用されていますが、極めて多忙な部署になっています。

今回、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムに、当院も参画させていただき、大変光栄に存じますとともに、高知県におけるその責務の大きさを強く感じております。何卒、宜しくお願い申し上げます。



7 July	8 August	9 September	10 October	11 November
1 火	1 金	1 月	1 水	1 土
2 水	2 土	2 火	2 木	2 日
3 木	3 日	3 水	3 金	3 月
4 金 インテンスセミナー (香川)	4 月	4 木	4 土	4 火
5 土	5 火 第1回緩和ワーク ショップ(岡山)③	5 金	5 日	5 水
6 日	6 水	6 土	6 月	6 木
7 月	7 木	7 日	7 火	7 金
8 火	8 金	8 月	8 水	8 土
9 水	9 土	9 火	9 木	9 日
10 木	10 日	10 水	10 金	10 月
11 金	11 月	11 木	11 土	11 火 第2回緩和ワーク ショップ(岡山)②
12 土 インテンス生涯教育 コース講演会(川崎)	12 火	12 金	12 日	12 水
13 日 FDワーキンググループ会議 FD研修報告会(岡山)	13 水	13 土	13 月	13 木
14 月	14 木	14 日	14 火	14 金
15 火 第1回緩和ワーク ショップ(岡山)②	15 金	15 月	15 水	15 土
16 水	16 土	16 火	16 木	16 日
17 木	17 日	17 水	17 金	17 月
18 金	18 月 FDシンガポール ～8月29日	18 木	18 土	18 火
19 土	19 火	19 金	19 日	19 水
20 日	20 水	20 土	20 月 FDシンガポール ～10月31日	20 木
21 月	21 木	21 日	21 火 第2回緩和ワーク ショップ(岡山)①	21 金
22 火	22 金	22 月 FDシンガポール ～10月3日	22 水	22 土
23 水	23 土 「がん緩和医療」 集中講義(徳島)	23 火	23 木	23 日
24 木	24 日 「がん緩和医療」 集中講義(徳島)	24 水	24 金	24 月
25 金	25 月	25 木	25 土 徳島消化器がん 化学療法セミナー	25 火
26 土 コンソーシアム協議会 (岡山)	26 火	26 金	26 日	26 水
27 日 看護WGシンポジウム (徳島)	27 水	27 土	27 月	27 木
28 月	28 木	28 日	28 火	28 金
29 火	29 金	29 月	29 水	29 土 がん看護WG講演会 (岡山)
30 水	30 土	30 火	30 木	30 日
31 木	31 日		31 金	

「がん緩和医療」集中講義

平成20年8月23日(土)・24日(日)
徳島大学共通講義棟

平成20年度第2回緩和インテンスコース

医師のための援助的コミュニケーションと
スピリチュアルケア研修会(第2回)
岡山大学病院 入院棟6階カンファレンスルーム6B
第1日研修:平成20年10月21日(火) 13:00~17:30
第2日研修:平成20年11月11日(火) 13:00~17:30
第3日研修:平成20年12月 2日(火) 13:00~17:30
※ 受講には、全3日間の出席が必要です。部分参加はできません。

徳島消化器がん化学療法セミナー

平成20年10月25日(土) 15:55~17:30
徳島東急イン(JR徳島駅前)

がん看護専門看護師コースWG講演会

平成20年11月29日(土) 14:00~17:00
岡山大学大学院保健学研究科棟 301教室

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.7

平成20年7月10日 発行

編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023

印刷所
有限会社 ファーストプラン